

菅義偉総理の自民党総裁任期満了にともなう総裁選挙は17日告示され、届け出順に河野太郎(58)、岸田文雄(64)、高市早苗(60)、野田聖子(61)の各氏が立候補、29日投票の日程で実施されている。党所属衆参国會議員一人1票の383票と110万を超える党員・党友383票の計766票で争い、一回目の投票で誰も有効票の過半数を得なければ、上位二人の決戦投票で総裁が決まり、実質的に第10代日本国首相が選出されることになる。

菅総理は正しい判断をした。総裁選出馬の意思を表明していた菅氏が9月3日突然、立候補取り止めの発表、党と国民に大きな衝撃を与えた。菅内閣は7月、8月と支持率を下げたおり、30%を割る世論調査も出る始末。年内の総選挙に向け、野党連携による憲政史上初の共産党与党政権誕生まで危ぶまれる情勢にあった。

とりわけ安倍晋三前首相人気によって当選してきたとされる3年生以下の若手議員たちには、「選挙の顔が不人気の菅首相では自身の再選ができなくなる」との動揺が走っていた。

菅氏の不出馬発表で、半年先の経済状況を先取りするといわれる株式市場は、現金にも一気に500円以上値を上げた。

これにより少なくとも2人の候補が決定的影響を受けた。1人は河野氏である。それまで現役閣僚であるために、現役総理に対して反旗は翻せないと出馬困難状態にあったのが一転、出馬可能となった。もう1人が高市氏。高市氏は、8月10日発売の月刊誌『文藝春秋』に「総裁選に出馬します」と題する論文を掲載し、実質的な出馬

自民党総裁選



共同記者会見に臨む4人の候補者。17日、東京都千代田区の自民党本部で

高市氏 女性初首相へ急加速

危機の時代のゲームチェンジャー

として出版した。

これらが火付け役となつて、YouTube番組に出演するなどして、高市ブームを予感させた。高市氏が自民党のコアな支持層である保守派がまさに実現してほしい政策を連発したからだ。景気浮揚策としてインフレ率2%達成までプライマリーバランスを一時凍結して財政出動するとした。これは中途半端に終わったアベノミクス

宣言。さらに『美しく、強く、成長する国へ。私の「日本経済強靱化計画」(WAC文庫)を政策集

の強硬版だ。予算配分権と税務署の捜査権を武器に、省益のため政界を支配する財務省に対する明らかな挑戦でもある。

高市氏は、憲法改正にも当然言及する。特徴的なのは、従来の9条問題ばかりでなく、コロナ禍でまさに実感した緊急事態条項の必要性を国民の生命を守る安全保障問題とからめて、現行憲法の欠陥として訴えていることだ。さらに、気候変動などにより大型化する災害リスクの軽減に政府が思い切った投資をして国民の生命と財産を守る。だけでなく、そこで生まれた土木・建築の新技术などを海外に輸出して外貨も稼ぐ、という一石二鳥的政策だ。

高市氏のリスク管理には民生

軍事の両面が含まれる。日本人にとって、日本が開発した先進技術で、外国から武力攻撃の危険にさらされることほど不条理はない。

外国とは、中国である。日本は、中国の軍事大学などから留学生を招き、大学や各種研究所で学ばせ、軍事的にも経済的にもきわめて貴重な機微技術をやすやすと持ち帰らせてしまう。日本は民生技術として研究開発するが、中国はそれを軍事技術にも転用するからその損害とリスクはあまりにも大きい。

最近話題となった「極」超音速滑空ミサイルはその典型だ。「極」というのはマッハ10にもなる超音速で、滑空というのは超低空で曲

がりくねりながら飛ぶから、レーダーにはかからないし、イージスといつても迎撃のしようがない。目標に設定されて発射されたならその都市は確実に壊滅する。そのミサイルの外殻を作っているのが日本原産技術の耐熱素材で、これは典型的な経済安全保障問題の一つである。

また、「日本経済強靱化計画」では、高度な防衛をしながら経済的にも豊かになるという視点を与えてくれた。

こうした高市氏の助走の中、9月3日の突然の菅首相の不出馬宣言に一早く反応したのが、安倍前首相である。すぐに「高市早苗支持」を明確に打ち出した。これが菅首相の「正しい判断」の理

由である。安倍氏は堂々と高市氏の応援団長になることができ、「総裁選勝ち抜こう」と激励の言葉を送った。さらには今、派閥をまたいで、有力な議員が高市氏支持を全力で訴えている。これにより高市氏の知名度も存在感もぐっと高まった。

これで高市氏の人気上昇を見てとった他候補は、その政策や言動を高市氏に寄せ始めるという現象が起こり、日本のあらゆるリスクに対し明確な経済安全保障政策を打ち出す高市氏は、危機の時代のゲームチェンジャーとなった。

これを際立たせたのが、8日の出馬会見であった。高市氏は冒頭、高らかに「私は国の究極の使命は

国民の皆様生命と財産を守り抜くこと、領土領海領空資源これを守り抜くこと、そして国家の主権と命を守り抜くことだと考えております。その使命を果たすために私の全てを懸けて働くことをお誓い申し上げます」と宣言、続いてサナエノミクスを中心に、細部まで練られた政策を分かりやすい言葉で語った。

メモを見るわけでもなく、数字や根拠や実態を交え、中国や北朝鮮をリスクと見て研究開発費をふくむ防衛費増額の必要性を訴えた。①(中国の)サイバー攻撃からの防衛②衛星、電磁波攻撃、無人機、極超音速兵器の開発、③場合によって金融制裁などの反撃④尖閣を守る為に自衛隊と海保が

動ける法整備など環境確立、⑤敵基地を一瞬も早く無力化できる法整備。などと矢継ぎ早に話した。また皇室皇統問題では男系一系のみを強調し、日本にとつての天皇のご存在の重要性を改めて示した。「靖国参拝問題」でも、「首相に就任しても参拝する」と言明した。エネルギー政策についても不安定な供給になりがちな再生可能エネルギーに向かうばかりでなく、安定した高品質の電力開発投資が日本の高度な物づくり技術維持、成長産業育成にも必要とした。

この会見はいくつかのメディアがノーカットでYouTubeにアップし、再生回数は他候補の9倍を超えた。

では、他の三候補はどのような政策を掲げているのか。河野氏は今のところ、新聞・テレビなど

オルドメディアの評価では総裁選レースのトップを走っている

が、主な主張は、「日本を前に進める」「人に寄り添う政治」「温もりのある社会」など「高校の生徒会長選挙の演説のような」(政治評論家)中身に深みがない。

外務大臣として韓国に厳しいことを言い、行政改革大臣としてはハンコ減らしに歯切れのいい発言をしていたものの、総裁選になると、従来主張

していた脱原発や女系天皇容認については態度を一変する前を翻すような言い訳をするなど、当初の「改革者」のイメージが

薄くなり、「本音がよく分らない。信用できない」(自民党員)と前評判に陰りが見えてきた。また、最低保証年金を打ち出しているが、「その財源を消費税でまいるのではないか」と発言、増税論者あることが明らかになった。さらに、ここに来て、父洋平氏や実弟が関係する企業が中国との貿易に深いかわりがあるとの事実が表面化し、河野一族と中国共産党との関係が注目されている。

早々と立候補宣言した岸田氏は、総裁を除く党役員の任期を1年連続3期までにするを公約。この発言で親中派の重鎮、二階幹事長おろしに実質成功した。また、岸田派の若手を中心に「新しい日本型の資本主義」成長と分配の好循環、小泉内閣以来の新自由主義経済からの転換、令和版所得倍増、分配機強化など総裁選に向けて準備を進めてきたが、各政策に具体性が欠けるのは否めない。

四度目にしてやっと推薦者20人を集めて立候補できた野田氏は「人口減少を止める」「子どもへの投資」などを主な政策とする。しかし、永田町では「河野候補の票を1票でも減らすための当て馬」地元では「総裁選出馬は」総選挙で何とか生き残るための自己宣伝(「自民党関係者」と全体的に評価が低く、総裁候補としては論外との見方が強い)。

野田聖子

大岡敏孝 神谷昇 出田実 福井照 三木亨 岩本剛人(参) 清水真人(参) 鶴保謙介(参) 竹下派: 百武公親 石井準一(参) 元米太郎(参) 渡辺猛之(参) 石原派: 宮路拓馬 無派閥: 木村弥生 渡海紀三郎 浜田靖一 拓植芳文(参) 徳茂雅之(参) 三原じゅん子(参) 山田俊男(参)

岸田文雄

麻生派: 佐々木紀 高島修一 馳浩 佐藤啓(参) 山谷えり子(参) 山田宏(参) 二階派: 小林茂樹 小林鷹之 山口社 木原稔 小野田紀美(参) 竹下派: 石川昭政 城内実 黄川田仁志 古屋圭司 無派閥: 青山繁晴(参) 衛藤晟一(参) 片山さつき(参)

